

厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん研究に患者・市民が参画するための教育カリキュラム第2版の評価と対面研修プログラムの開発

研究分担者

●片山佳代子 群馬大学情報学部 准教授 / 神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん教育ユニット長

【研究要旨】：がん研究における患者・市民参画を推進するために、研究班で開発した教育カリキュラム第2版の評価方法とその準備を行った。患者・市民参画は、患者サイドと医療者サイドの両輪で成り立つものであるため、昨年に引き続き医療者の患者・市民参画の認知度を含めた動向調査を実施した。その結果は、昨年と比較し、患者・市民参画という言葉が「知らなかった：45.4%から52.2%へ」「言葉も意味もどのようなものか理解している：23.4%から17.3%へ」と一見認知度が下がる数値であったが、回答者数や回答診療科が増える等の要因があった。内閣府の調査でも国民の認知度は2%と非常に低い結果であり、さらなる情報発信や広報が必要であることが分かった。

研究班では専用サイトを開発し、コンテンツの充実を図り、情報発信を進めており、患者・市民とともに教育カリキュラム第2版のコードを付与した初めての対面研修会の企画、プログラム開発を行った。

A. 研究目的

本研究班で開発した①患者・市民ががん研究に参画するための教育カリキュラム第2版の評価方法ならびに実際の評価実施について検討すること、また両輪となる②医療者側の患者・市民参画に対する動向を継続調査し、日本における患者・市民参画の推進のための資料を作成すること、そして③研究班が主催する初めての対面研修会を企画し、研修プログラム（専門研修）の事例を作ることを目的とした。

B. 研究方法

① 教育カリキュラム第2版の評価

評価方法については昨年度に実施した先行研究レビュー結果を参考に、主観的な習熟度を測るアンケート調査を開発した。教育カリキュラムは6領域のカリキュラムコードから成る。研究班専用サイト内で公開される教育動画を受講した対象者がサイト内で評価する方法となっている。受講環境が整い次第、プレ調査として全がん連理事（4名）と全がん連から推薦された患者団体の長（6名）に依頼し、プレ調査を実施する予定である。その後、本調査評価については、プレ調査で調査項目の整合性を確認し、最終調整した内容で各コードのコンピテンシーに関する理解度（習熟度）を5件法で評価し、同時に各コードについて自由記述で回答を求める。集計は、各コードをスコア化する。

サンプルサイズ計算：A-Hのコードの平均点を比較（一元配置分散分析効果量 0.25、 α エラー 0.05、検定力 0.3）する場合 240名の受講数で解析する予定である。

② 医療者意識動向調査

昨年に引き続き日本癌治療学会会員（医療者対象）にアンケート調査を実施し、継続的な医療者側の動向を把握した（7月31日～8月22日web調査を実施）。

③ 対面研修（専門研修）企画とその評価

開発した教育カリキュラムコードを使った研修会を企画した。実際には、患者委員と綿密な打ち合わせを実施、対面研修WGメンバーを中心にプログラム案を作成した。対面研修会の評価については、受講者と企画側の両方からアンケート調査を実施し、データを得る予定である。

本研究班の①ならびに③の評価については、3年間という短い研究期間内でプログラム開発と評価を同時に実施している点を鑑み、定量的評価よりも定性的評価で図るを得ないことから患者・市民からの質的評価を重視する予定を進めることを評価WGで共有した。

（倫理面への配慮）

①については、教育プログラムの開発が目的のため人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に必ずしも該当しない旨、神奈川県立がんセンターのIRBから回答を得ている。

②について同センターの研究倫理審査を受け承認された上で実施し、③については群馬大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会に申請し、承認を得た後実施予定である。

C. 研究結果

①については、専用サイト内に評価に関する設定を構築した。受講環境が整い次第、プレ調査、本

調査と進めていく予定である。

②について：医療者からの意見を集計解析した結果、1014名から回答を得ることができた。PPI(患者・市民参画)という言葉を知らなかった：45.4%から52.2%へ、「言葉は知っている：聞いたことがある：31.3%から30.6%へ」、「言葉も意味もどのようなものか理解している：23.4%から17.3%へ」となった。昨年の調査よりも回答者が増加し、様々な診療科の医師の回答が増え、すそ野が広がったことでこのような結果となったと推測している。自由記述を年比較したところ、2022年は「個人」、「市民」という単語が大きく、2023年は「意見」、「医療」という単語が目立つ結果であった。

③については、2024年7月20日に都内の会場において第1回対面研修会を開催する。研修会タイトルは『みんなで創る！がん研究のための患者・市民参画研修会(第1回)』と決定した。班員だけではなく、全がん連の協力のもと、患者(家族)のファシリテーターが受講者を支援する形で参画する予定である。

D. 考察

令和5年度内閣府で実施した世論調査で「患者・市民参画」について知っていたか聞いたところ、「内容も含め知っている」と答えた者の割合が2.0%、「言葉だけは知っている」と答えた者の割合が13.6%、「知らない」と答えた者の割合が83.9%となったと報告された(令和5年7月調査)。都市規模別、性別に大きな差異は見られていないとのことだが、年齢別に見ると、「言葉だけは知っている」と答えた者の割合は70歳以上で、「知らない」と答えた者の割合は18~29歳、30歳代で、それぞれ高くなったと報告されている。こうした一般市民の動向を鑑みると、本研究班で実施している医療者の動向調査結果は、昨年よりも認知度が下がったとは言え、妥当な結果と捉えている。

まだまだ認知度が低い結果であるが、本研究班の活動を通して広く「患者・市民参画」という取り組みや文化が日本に根付いていくよう情報発信を続けることが重要である。

E. 結論

本研究班専用サイト内で第2版カリキュラムコードに基づく動画研修ツールや、対面研修会についての準備、企画が進んだ。教育プログラム開発と同時に評価も実施するという時間的制約の中で最適な評価方法を検討した。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

・片山佳代子. がん研究に求められる患者・市民参画と教育プログラムの開発：レギュラトリーサイエンスからみた新しい人材育成. 臨床評価. 51 巻 3号,374-378, 2024.

・Suketomo YH, Katayama K, Ogihara A, Sato AM. Process of developing a cervical cancer education program for female university students in a Health and Physical Education teacher training course: an action research. BMC Womens Health, 2023; 3(1):1692023.

・Ebara Y, Nagasaka K, Sakaguchi M, Ueda N and Katayama K. A study on analysis on poster's emotion on SNS for supporting female cancer in COVID-19 pandemic. Artificial Life and Robotics (ISAROB)2023; 1100-1104.

・Hase R, Suzuki D, DE Luise C, Chen H, E, Higuchi T, Katayama K, Kinjo M, Jinno S, Morishima T, Sugiyama N, Tanaka Y, Setoguchi S. Validity of claims-based diagnoses for infectious diseases common among immunocompromised patients in Japan. BMC Infectious Diseases. 23, Article number: 653 (2023).

2. 学会発表

・片山佳代子、石川大介、上田暢子. 女性がんピアサポートSNS[Peer Ring]の投稿から探るがんアンメットメディールニーズの可視化. 第33回日本疫学会学術総(浜松) 2023年2月

・菅悠史, 阪口昌彦, 川相一郎, 岸田徹, 佐藤美紀子, 野田真由美, 長谷川一男, 浅野健人, 片山佳代子. 本邦のIRB所属委員の立場の多様性の探索. 臨床試験学会 第14回学術集会(金沢, 2023年2月)

・片山佳代子. 第一生命株式会社太田支社 社員研修会講師 「子宮頸がんを学ぶ」
2023年5月

・片山佳代子. 「がん医療・ケアにおける Patient and Public Involvement(PPI:患者市民参画)『がん研究における PPI 推進の医療者のニーズ・課題について』」. 第28回日本緩和医療学会学術大会パネルディスカッション1.
2023年6月(神戸)

・江原 康生,長野 瑞樹,阪口 昌彦、上田 暢子,片山 佳代子. 女性がん相互支援 SNS における投稿者の感情変化に関する視覚的分析. 第51回可視化情報シンポジウム (小樽) 2023年8月

・川相一郎、桜井なおみ、鈴木牧子、古谷佐和子、前田留里、山田富美子、伊藤ゆり、片山佳代子. 全がん連サバイバーシップニーズ調査報告「私たちが考える“がんサバイバーシップ”」. 第36回日本サイコオンコロジー学会総会、2023年10月 (オンライン)

・片山佳代子. 「本邦で患者市民参画は普及したか？」座長：宮川義隆 (埼玉医科大学)、片山佳代子 (群馬大学), 第61回日本癌治療学会学術集会 (横浜) 領域横断シンポジウム. 2023年10月

・片山佳代子. 第61回日本癌治療学会学術集会 (横浜) 社会連携・PAL委員会シンポジウムシンポジスト. テーマ「がん医療をささえる基盤に JSCO はどう関われるのか」演題：『2022 年、23 年 JSCO 医療者アンケート調査等から見えてきたこと』2023年10月 (横浜)

・片山佳代子. 「本邦で患者市民参画は普及したか？」第 61 回日本癌治療学会学術集会 (横浜) 領域横断シンポジウム座長. 2023 年 10 月

・片山佳代子. 「レギュラトリーサイエンス・オープンサイエンスからみたデータサイエンス：その基本原理と人材育成」研究集会シンポジスト「がん研究に求められる患者・市民参画と教育プログラムの開発:レギュラトリーサイエンスからみた新しい人材育成」2023 年 11 月 (群馬大学)

・片山佳代子. トークカフェ at PLUS+アンカー：サイエンスカフェ in 桐生④依頼講演 「誤解の多いがんについて～正しい情報最前線～」(桐生市) 2023 年 10 月

・片山佳代子. 大阪市健康局 子宮頸がん予防セミナー (市民公開講座:企画運営) 2023 年 11 月 18 日、大阪 (天王寺区)

・片山佳代子. 子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～大阪市健康局 子宮頸がん予防セミナー (市民公開講座:企画運営) 2023 年 11 月 18 日、大阪 (城東区) 子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～

・片山佳代子. 子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～大阪市健康局 子宮頸がん予防セミナー (市民公開講座:企画運営) 2023 年 11 月 18 日、大阪 (北区) 子宮頸がんを予防するという選択～今だからできる～

・片山佳代子. 第 82 回日本公衆衛生学会総会 公募型シンポジウム 51「第 2 回全国自治体調査結果と自治体支援について」2023 年 11 月 (つくば市)

・片山佳代子. 群馬県がん教育外部講師講演「がんについて学ぼう」沼田市薄根小学校 6 年生とその保護者に向けて. 2023 年 11 月

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし